

## 平成 23 年度 8020 公募研究報告書抄録

研究課題名：産業歯科保健プログラムに「参加する人」と「参加しない人」の特徴の解明  
～口腔内状態、健康行動、健康観の比較に基づく活動施策の提言を目指して～

研究者名：武藤孝司<sup>1)</sup>、市橋透<sup>2,1)</sup>、高田康二<sup>2)</sup>、西埜植規秀<sup>3)</sup>

所属：<sup>1)</sup> 獨協医科大学医学部公衆衛生学講座、<sup>2)</sup> (公財) ライオン歯科衛生研究所、  
<sup>3)</sup> ライオン (株) 健康サポート室

### 【目的】

職域での歯科保健プログラム (以下、プログラム) は任意参加方式で実施されている場合がほとんどで参加率は一般に低い。そのため、プログラムへの参加者は非参加者に比べ、口腔の健康に関心が高い可能性が指摘されているが、参加者と非参加者の口腔内状態や歯科保健行動の違いは十分明らかになっていない。そこで、本研究ではプログラムへの非参加者の口腔内状態や歯科保健行動などの特徴を参加者と比較し、明らかにする目的で行った。

### 【対象および方法】

対象は、(公財) ライオン歯科衛生研究所が実施するプログラムを 2001 年までは任意参加方式で実施し、2002 年から全従業員を対象に実施した某企業従業員で、本研究に同意が得られた 3,142 名を解析対象とした。この解析対象者を性別と年齢階級 (20-39 歳、40-59 歳) で分類し、02 年に実施した質問紙調査から、任意参加方式時に「参加しなかった者 (非参加群)」と「参加した者 (参加群)」の 2 群に分類し、口腔内状態や保健行動を比較した。

### 【結果】

#### 1. 口腔内状態

一人あたりの未処置歯、喪失歯の比較では、非参加群は参加群に比べ多い傾向がみられ、40～59 歳の男性では有意差が認められた。歯周組織の状態 (CPI sextants) の比較でも非参加群は参加群に比べ、コード 0,1 (健康、出血) が少なく、コード 3、4 (歯周ポケット) が多い傾向がみられ、20-39 歳の女性を除いて有意差が認められた。

#### 2. 保健行動

非参加群で昼食後の歯みがき習慣のない者が多く、すべての性別年齢階級で有意差が認められた。ブレスローの健康習慣でも、非参加群で行っている習慣が少ない傾向にあった。また、男性では、いずれの年齢階級でも非参加群で喫煙者が多く有意差が認められた。

#### 3. 多重ロジスティック回帰分析

プログラム参加に影響する最も大きい要因は、性別や年齢階級にかかわらず「職種」で、職種の中では研究職で任意参加時のプログラム参加者が多かった。

### 【まとめ】

プログラムを任意参加で実施した場合、非参加者には口腔内状態や歯科保健行動などが良好でない者が多く、保健指導や受療勧告を必要とする者への指導の機会を逃す危険性が高いことが示された。すべての就業者の口腔保健の向上と底上げに結びつけるためには、定期健診に併せてプログラムを実施するなど、全員が参加できる体制作りが必要と考えられた。